

会長メッセージ

平成25年度も終わろうとしています。6期12年の長きにわたり県連会長をやらせていただき、ありがとうございました。

12年前、会長就任にあたり、少なくとも3期、長くて5期という話をさせていただきました。結局1期、多く勤めることになりました。3期というのには、私なりに根拠がありました。何事も石の上に3年ということわざがあります。最初の1年・1期は流れを把握するだけで精一杯、2期目で少し自分なりの仕事ができ、3期目で、それを発展させる。これが組織としての活動の姿ではないでしょうか。ただ、5期10年も続けると、マンネリ化になり、新しい発想等も出にくくなります。

就任当初は、いろんな事に手をだし、規約改正も何度か行いました。安定期と言えれば聞こえはいいですが、やはりマンネリ化の傾向は否めません。全日本弓道連盟も奈良県体育協会も公益法人になりました。公益法人の加盟団体としての役割、組織改革も必要です。次期会長はじめ、スタッフは、新たな気持ち県連発展のためにご尽力いただきたいと思います。

今後は一会員として、県連のために協力していきたいと思います。長い間ありがとうございました。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

◆ 的貼り

3月2日 橿原公苑弓道場にて、連盟行事用の的貼を午前中の予定で行いました。各支部より連盟会員約20名が参加し、的は30的を貼り替えました。

昨夜からの天気予報では雨の予報でしたが当日は朝から雨を感じるか感じないかの天気でも味方し無事、的の貼り替えを終えることが出来ました。

今回初めて参加された会員の方とお話をしていると、各支部、道場によって的の貼り方も色々な貼り方があるようで連盟で使用している的の貼り方も勉強したいとのことでした。そんな話を聞き、改めて私たち弓を引くものとして弓を引く技術だけに意識がいきがちだが使用する的や備品など使わせていただく物の事にも気を配ることの大切さを改めて感じた半日でした。

(蒼穹会 乾)

◆県弓道団体選手権大会兼全国勤労者大会県予選



H26年2月17日 橿原公苑弓道場にて開催。矢道には雪が残る中でスタートしました。竹村副会長から、「本大会が本年度最後の競技会です。矢道の真っ白な雪にそれぞれの思いを描いてください。特に弓道で大切にしている縦線を生かしてほしいです。また、4月から新しい体制がスタートするが、組織の縦線を大事に

してください。」との挨拶を受ける。

竹村副会長の矢渡の後競技開始。54チームが技を競いました。予選は各自8射で上位8チームが決勝に進出。うち2チームは高校生チームとなりました。

結果は、優勝が橿原高等学校（西川佳那、増谷香乃子、伊藤ほの香）、第2位には橿原Eチーム（林秀子、小野温美、奥戸由美）、第3位には奈良Mチーム（藤原春雄、中山誠一郎、中井達男）となりました。予選で12射皆中を果たした王寺工業高は3位決定戦にて惜しくも敗退となりました。（土谷）

◆第3回 審査講習会

3月2日（日）橿原公苑弓道場において審査講習会が行われました。この講習会は、3月の地連審査のための講習会で、講師は指導部だけで行いました。

今回は人数が多くて（中学生38名、一般30名の計68名）1回の行射しかできませんでした。開始も9時15分に始め、12時前まで休憩なしで行いましたが、入場から退場までの体配を何回か繰り返し、射技指導も行いながら進めたので、各自1手だけで終わってしまいました。

しかし、受講生の皆さんは、自分が引いている時はもちろんですが、それ以外の時も一生懸命見取り稽古に励んでおられました。その姿を見て、時間が少なかったけれど価値ある講習会ができたのではと実感しました。

午後から指導部だけの研修会を行いました。今年は午前中に的張りをさせていただいた人たちの中で一緒に引かせてほしいという数人が加わり、人数が増えたため（12名）、持ち的1組と一ツ的3組の射礼研修を行いました。しかし、その都度活発な意見交換があり、充実した研修会となりました。

休憩後、射技指導を5時前まで行い、指導部の研修会を終了しました。（指導部：岡本蔦子）

◆ 第2回世界弓道大会（パリ）日本団体代表選考会

に参加して

10月の近畿地域弓道大会でたまたま皆中し、競射で8寸的に蹴込、4位に滑り込み近畿代表に選出頂き5か月、平成26年3月1日に中央道場で、全国から選考された35名での選考会が開催されました。

40歳過ぎにして再開した自身の弓道人生でまさか選考されて全国レベルの大会に出ることなど考えてもいませんでした。この選考会は四ツ矢で20射も引くため、普段の練習では一手で10射も引くか引かないかの私に、四ツ矢練習するぞ！20射会やるぞ！と周囲の皆が練習に協力してくれた5か月でした。

選考会前日の中央道場での個人練習、周りは当然翌日の参加選手たち、その顔触れは若く元気な国体常連組や、熟練の射の全日最高得点者等。広い道場の中で弦音の後に聞こえてくるのは当然的中音、中るのが当然のように練習している皆さんでした。四ツ矢が一本の太い矢のように眼に中っているような的を見せつけられました。そんな中、自分のできることをするしかない、気後れしまいと練習すると皆中とはいかなくとも周りに影響されてか普段よりもよく中る前日でした。

選考会当日、石川会長はじめ、そうそうたる範士の先生方が選考委員として上座に座られる中、審査とは違い不思議と緊張することなく、引き始めました。自分の射を、いつも通りの射を、と思い頑張りましたが、2中、3中、そして3回目の2本目を抜いてから力みが出て崩れ1中、昼食後の巻き藁で調整したつもりも、どこが悪いかわからないまま中りが出ず、0中、1中。終わってみれば半矢にも程遠い的中で当然のごとく最下位でした。近畿代表に選出して頂いた先生方や練習に付き合ってくれた仲間たちには非常に申し訳ない中結果となりました。しかし、この選考会に向けての練習と選考会前日、当日の中央道場での経験は私の非常に大きな宝となりました。

選考は、元気で切れがあり勢いがあり的中確実という射の若者たちが選ばれ（残念ながら近畿からは誰も選ばれませんでした）、きっとパリでは優勝という栄誉を得てかえって来てくれることと思います。（衛藤）

◆ 平成25年度称号者研修会

今年の称号者研修会は3月8日・9日の2日間にわたり、青森県弓連会長の川村光良範士八段をお迎えし樫原弓道場で行われました。受講生は錬士31名、教士12名の計43名でした。研修内容としては、持ち的、一つの射礼と射技を中心に進められました。（右上へ）

今年は射技指導の時間が多く、受講生個々の課題・悪癖の克服に具体的な指導を受けられ理解が進んだと思います。

射については、三重十文字と縦線を堅持することが指導の基本にあつたように思います。ポイントは

↑左右の足踏みがゆがむと三重十文字が正しく構成されず縦線が崩れすもとなるので、特に一足で開く人は、的中心と一直線上に両足先がそろうように十分に練習すること。

↑大三をしっかり「組む」ことが重要であり、自分にとってどこが一番会に入りやすいかを各自で研究すること。

↑下弦をしっかり取り、離れでは絶対捻りを戻しながらの離れはしないこと。

↑動作一つひとつに残身（心）があり、おろそかにしないこと。

川村先生の一手を拝見して、離れの後にもう一段天地に伸びているような残身に感動を覚えました。

弓の稽古は「覚悟」をもって行うことを強調されました。

↑審査や晴れの場合、大きな大会など、究極に追い詰められた状況を想定して稽古すること。

↑その日の最初の1本に、その日最高の弓を引く心構えで稽古すること。

↑本気で射に向かい、次（の審査）があると安易に思うな。

↑審査、大会などに標準を合わせ、その日に最高の射ができるように計画をたてて稽古すること。

この研修会から、射の技術的なこと以上に、川村先生の弓道に対して謙虚で正直に向かい、たゆまず研究を怠らない姿勢に正直心が打たれました。

川村先生は、青森の空港が吹雪で閉鎖されたため、急きょ鉄路で長時間かけての来奈になったと聞きました。疲れた様子も見せず一人ひとりに熱心にかつ精力的にご指導されている姿に感謝の念を強く持ちました。

（指導部 千葉健一）

◆ 理事会

平成26年3月2日 樫原公苑第一体育館会議室にて役員、理事21名が出席し開催。

①役員改選、スタッフの変更について ②シニア部の創設
③規約の変更 ④各部の事業計画 ⑤会計報告・予算案
⑥その他：和歌山県会長に田中康雄氏、大阪府事務局が高辻氏に、生駒支部の奈良地区からの独立について（検討課題に）、奈弓連便り編集を衛藤氏に、確認・発行を土谷に等を評議委員会に向けて審議

編集後記 吉本先生の治療も順調で、元気なお姿をまもなく拝見できそうです。これまで、皆様のご協力により編集を無事に終えることができました。ありがとうございました。今後ご協力を。